

# 「Topic」 福祉型障害児入所施設の現状と課題

社会福祉法人滝乃川学園 参与 本多公恵

障害児入所施設に入所している子どもの数（定員数）は少子化とともに減少傾向にあります。一方、児童養護施設に障害のある子が入所し、軽度の知的障害や発達障害の子どもの数は増えているという統計もあります。以前は施設には障害の重い子どもが入所していましたが、現在は発達障害児の増加が目立ちます。

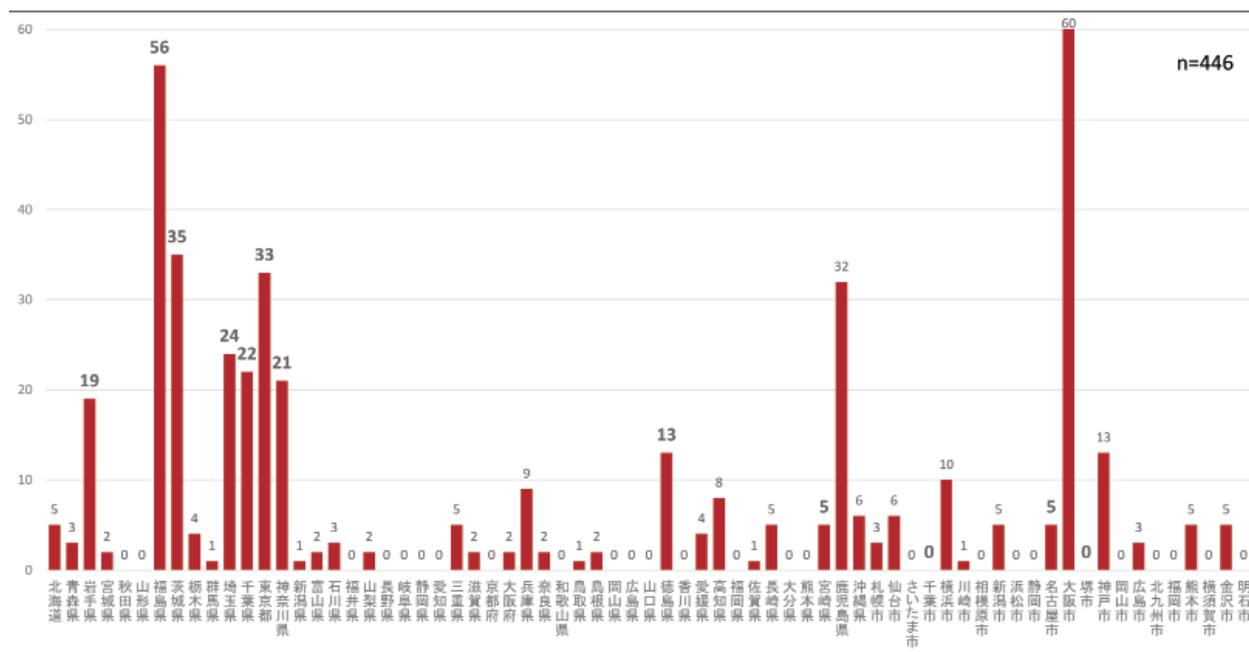
課題の一つに施設からの出口の問題があります。全国の障害児入所施設を見ると2020（令和2）年の調査でもまだ446人以上の年齢超過者（18歳以上のいわゆる過齢児）が在籍しています（図1参照）。

筆者の所属する滝乃川学園でも2004年の建て替えを機に、障害児入所施設の定員を78名から30名に減らしました。その際、過齢児は、成人部門の定員を増やし住み替えを行っています。

現在は、ほとんどの子が18歳前後でグループホームや成人施設、一人暮らし、少数ですが自宅へと移行し退所しています。その準備は15歳くらいから始め

ます。高校や特別支援学校卒業と同時に住まいと働く場を決めなくてはならないため、職員も学校の先生やご家族、行政職員などと協力して奔走します。色々な事情で親元を離れ、職員との信頼関係を築き、育ち直しをして自分の居場所を見つけ安心できたのもつかの間、退所とともにまた一から人間関係を構築していかなければなりません。さらに家事を含めた生活に関わる様々なことや一人で過ごすことを、ある程度身につけることも求められます。これは同じ年齢の障害のない子より高いハードルを示されているように思えます。

2020年の「障害児入所施設の在り方に関する検討会」最終報告では、「入所施設の中に児童と大人が混在することにより、年齢に合った児童集団の形成が困難であり、（中略）支援の質が低下するおそれがある」と指摘しています。また、強度行動障害など本人の特性のために他施設や地域での暮らしが困難な場合の対応も求められ、移行調整のひとつとして施設内に



出典：厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 障害児・発達障害者支援室調べ（令和2年7月29日時点）  
※京都市調整中

図1 福祉型障害児入所施設に18歳以上で入所中で移行先が決定していない者の現状（都道府県別）  
出所：「資料1 障害児入所施設における18歳以上入所者（いわゆる「過齢児」）の移行について」厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課障害児・発達障害者支援室（2021年7月28日）

ソーシャルワーカーが配置されるようになりましたが認知度は低く、社会資源を開拓し移行の道筋を立てるのは施設だけの責任では困難です。昨今、都道府県(政令市)が成人期への生活の移行調整に関わるようになりましたので、その役割に期待したいものです。

課題の二つ目として入口の問題、三つ目に施設の機能の問題が挙げられます。

2014(平成26)年「今後の障害児支援の在り方について(報告書)」では施設が担う機能として、

- ①発達支援機能、②自立支援機能、③社会的養護機能、④地域支援機能、の四つに整理されました。

発達支援機能としては、良好な家庭的な環境の中で特定の大人を中心とした継続的で安定した愛着関係の下で支援がなされることが重要とされ、ケア単位の小規模化が推進されています。当園でも地域の小学校に通う子どもの、友達を家に呼んで遊びたいという希望を受け、施設外の居住(借家による小規模住居)を認めてほしいと以前から訴えてきました。法改正により、ようやくこの当たり前の子どもの要望が可能になりました。

また多様なスペシャルニーズを持った子の支援のため

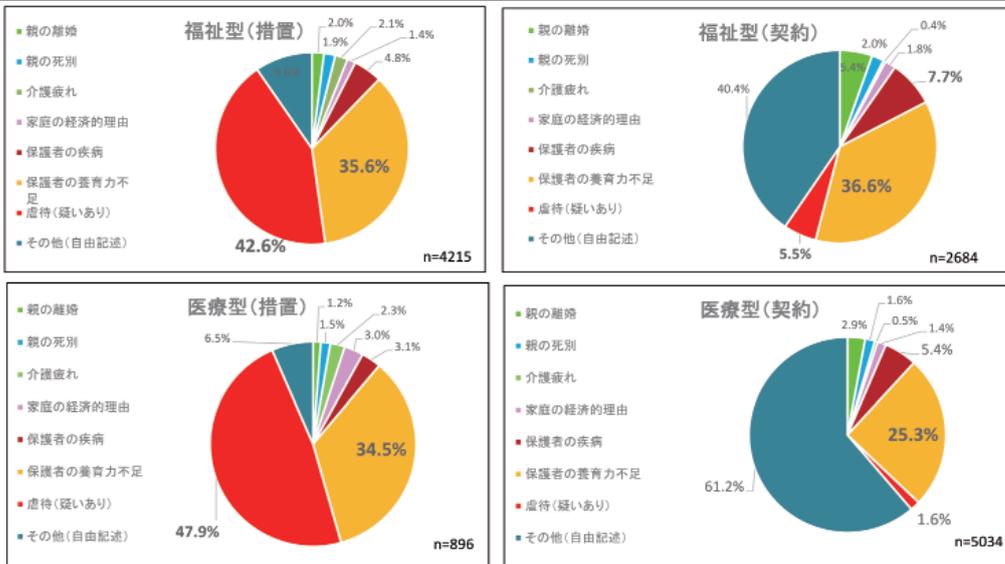


好きなもので囲まれた子どもの個室

ために、専門的ケアと質の保障が必要です。心理士や保育士がアセスメントをとり、支援計画に落とし込み、実践し評価・見直しを繰り返すことで育ちを支援しています。さらにインクルーシブな支援を意識して社会とのつながりを作る工夫をしています。

## 現状

入所理由としては福祉型、医療型共に、措置では虐待(疑いあり)、保護者の養育力不足が多い。契約では、保護者の養育力不足が多くなっている。



出典:厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 障害児・発達障害者支援室調べ(平成31年1月17日時点)

4

図2 入所理由

出所:「障害児入所施設の現状」厚生労働省 <https://www.mhlw.go.jp/content/12204500/000540810.pdf>

入所理由(図2参照)をみると、措置では被虐待児の割合が増え、措置・契約とも保護者の養育力の不足が大きな要因となっています。この傾向は児童養護施設や乳児院でもみられ、施設の社会的養護機能へのニーズが高まっていることが分かります。一番信頼できる親と共に暮らせないことは子どもの愛着の形成にも影響を及ぼすため、職員は専門的な知識をもって向き合い、自立をサポートしています。

地域支援機能では職員が、子どもと家族のニーズをキャッチし、個別課題(生活上の課題)の解決や望む生活の実現など個々の場面に応じて、様々な社会資源の間に立って、必要な支援を有機的に結びつけるなどの役割も担っています。大人になって二次障害である行動障害を生じさせないためにも、幼児期、児童期の適切な支援の積み重ねが重要です。

現在の4対1という職員配置基準では、きめ細かくかつ地域との架け橋になる業務を行い、さらに退所した子のアフターフォローなどにまで気を配るにはかなり難しい状況となっています。これらの様々な課題を内包しつつではありますが、目の前にいる子どもの幸せを願って支援に取り組んでいます。

## 事業所紹介

# 子どもの第三の居場所「ロッケンハウス」（愛知県蒲郡市）

……………障がい者施設だからこそ、必要とされる子どもの居場所

私ども社会福祉法人楽笑は、2014年に放課後等デイサービスを開所し、当時利用する児童が、「地元の友達と遊びたい！」という想いから、地域の中でインクルーシブな子どもの居場所を創っていこうという動きが始まりました。

地域の子どもたちや大人たちと交流する居場所を模索する中で、共生型サロン（通所サービスB型）、子ども食堂等、様々な交流拠点事業を行ってきた結果、少人数で、週に複数日開催出来、地域の子どもたちとしっかりと関わり、お互いの関係性を構築できるような居場所が望ましいという結論に至りました。

そこで、蒲郡市のバックアップのもと、公益財団法人日本財団の「子ども第三の居場所コミュニティーモデル事業」を申請し、定員15名、週3日開所の子どもの居場所「ロッケンハウス」を2024年1月に開所しました。

今までの経験を踏まえ、地域の子どもたちと家庭の情報を丁寧に聞き取ること、単に預かりではなく、保護者の方も一緒になって子どもを育てるという趣旨に

ご賛同いただける方に登録していただくことにしました。

各福祉事業と同じように家庭の状況や子どもの特性等、細かくアセスメントを行う中で、保護者の方から多く言われたのが、「子どもの発達が少し気になります。楽笑さんだったらわかってくれると思って登録に来ました」という言葉。

実際に60名の登録中、発達に気がかりな児童が17名、全登録者の約30%という結果になりました。放課後児童クラブに通わせることに不安がある。友達ができないから、他の小学校区の居場所に通わせて友達を作りたい、子どもの障がいに対して受け止められない等、新たな地域生活課題に対する福祉法人への期待がこのような数字として表れているのかと思います。

我々の専門性を活かすことで、様々な子どもたちの居場所として機能する中で、ひきこもりや不登校への予防や対応にもつながり、地域から必要とされることで誰もが関わり合う、インクルーシブな子どもの居場所に近づくものだと考えて活動をしています。

（社会福祉法人楽笑 相談支援専門員 佐宗めぐみ）



ロッケンハウスの外観（左上）と活動の様子

2024年度

# 支援者を伸ばす実践セミナー

発達支援におけるさまざまな視点・実践を学ぶ  
～摂食指導・作業療法・心理療法と現場の実践を  
分かち合う研修～

## 実施報告

公益社団法人日本発達障害連盟 理事  
星槎大学 副学長  
西永 堅

2024年6月8日(土曜日)、9日(日曜日)に、北とぴあ(東京都北区)にて、会場参加と、オンライン参加のハイフレックス方式でセミナーの開催をしました。また、セミナーの講義に関しては、オンデマンド配信も行いました。

初日は、西永が「幼児期の発達支援について①(概論)」を行い、続いて特定非営利活動法人めぶき・宮田理恵先生による「発達支援における心理臨床の視点」、発達障害特化型自費リハビリ GREEN REBORN・佐々木寛子先生による「発達支援における作業療法の導入」の講義が行われました。その後、参加者同士の話し合い活動が行われました。また、2日目は、東京学芸大学・橋本創一先生による「幼児期の発達支援について②(概論)」の講義の後に、ニュータウンはぐくみ歯科・松澤直子先生による「発達支援と摂食指導」の講義、そして、小金井市児童発達支援センターきらり・佐々木宣子先生から事業所実践報告が行われ、2日目も参加者同士の全体を通じた話し合い活動が行われました。

いずれの講義も、各専門家からの専門的な知見だけではなく、実践に結びつく具体的な例も紹介されました。臨床心理学の視点からは、大きな視点でよい支援

とは何かを考えることの重要性が述べられていました。また、作業療法の視点からは、自律神経には交感神経や副交感神経があり、リラックスすることの重要性が述べられました。歯科医師の視点からは、口腔機能の発達と摂食指導について具体的な実践の講義が行われました。そして、小金井市児童発達支援センターの事業所実践報告では、保護者との情報共有など保護者支援の重要性も述べられていました。

参加者の感想では、セミナーで受講した内容は事業所等に戻り実践できる内容であったかというアンケートの質問に対して、できると思うと答えてくださった受講生が多くいらっしゃいました。また、次年度においても、実践に生かせるセミナーを行っていきたいと考えています。



1日目：宮田先生による講義



1日目：佐々木寛子先生による講義



2日目：松澤先生による講義



2日目：佐々木宣子先生による実践報告



## 準会員・賛助会員募集

私たちの事業活動にご賛同いただける会員(個人・法人)を募集しています

年会費(1年間4月1日から3月31日まで)／会員特典がございます

[準会員] 1口 50,000円 [賛助会員] 1口 10,000円

詳しくはホームページにて

### ● ご賛同いただきありがとうございます(24.4.18～6.26 順不同/敬称は省略させていただきます)

うさぎ珈琲(株) 結PLUS 共同カイツック(株) 瀬能聖美 飯泉弘仁 明宮茂 博愛こども発達支援センターあそびのお城(特非) grand-mere  
 赤羽西福祉工房(特非) さつき寮(特非) ノーマライゼーション協会 日の出太陽の家 よつぎ療育園 青葉メゾン 港区立児童発達支援センター  
 (特非) たけのこキッズ(一社) 日々木の森 藤枝第三心愛(一社) みのりの里(福) ひつじはたらき 山田純子 うめだ・あけぼの学園  
 (福) 靖和会ラシーネ西東京 町田福祉園 地域活動ホーム径(社) lykke(福) 同愛会幸陽園 かながわ地域活動ホームほのぼの 東堀切くすのき園  
 宇津峰十字の里(特非) わかば春日部 とぶき育成園(同) TKプロジェクト 障害者支援施設ひかり苑 障害者支援施設あかつき園 はすの実作業所  
 桑原桂 狛江市児童発達支援センター 西伊興ひまわり園 光の家新生園 西新井ひまわり工房(福) せたがや檜の木会まもりやま工房 浅井研  
 (一社) 紫宝会 仁尾志保(公社) 石川県手をつなぐ育成会 マナの家(福) 千手会木の宮学園 定森恭司 障害者活動センターキックオフ  
 名古屋恒彦 美和とよみ 障害者支援施設白鷹陽光学園 余市幸住学園(福) 敬業会ときわ しりべし学園成人寮 伸栄学習会北栄教室  
 岐阜県知的障害者支援協会(株) THE SHIP(福) 地の星ペロニカ苑(福) 悠久会明けの星寮 つなぐのところ ひだまりのところ ピア宮敷  
 (公財) 十愛会十愛病院 村林秀紀(福) さざんか会のみる 入江紀夫 原仁 三浦明子 金子健(福) 後志報恩会大江学園 ルンビニー園  
 シェアハウスPeace(特非) i&i 小澤温(福) みらい工房(社) 長野県知的障害者育成会ドリームワークス 池谷尚剛(福) さざんか会  
 さざんかキッズ 山内俊久 相談支援室かすみそう 須藤章 精華(福) 正和会障害者支援施設サポートなごみ(福) 後志報恩会銀山学園  
 障害者支援施設みつば学園(福) 第二つつじヶ丘学園 日野学園(福) 小諸学舎 相川勝代 四俣一幸 宮本伸治 片山文彦  
 (財) ひょうご子どもと家庭福祉財団 稲葉美保(福) 麦の子会 武田信子(特非) 自立 都築陽子 小畑信彦 関谷繁 安藤美智子 西恵美  
 曾田千重 谷口奈保子 はなわ育成園 ほうあんふじ 土橋とも子 最上ふれあい学園 生活介護事業所大きな木(福) さくらんぼの会  
 (福) 松里福祉会 松本和久 谷信也 鈴木薫 あさひが丘学園 障害者支援施設いずみの里(特非) 紡ぐ 自立支援センターあおぞら 武蔵野児童学園  
 侑愛荘(特非) は一とふる(福) 芳香会青嵐荘路のとう舎 三浦清邦 障害者支援施設東山荘 博愛ヴィレッジ 岡山県手をつなぐ育成会  
 (福) ひとつさの葡萄(福) 一粒 森英一 望みの門木下記念学園(福) むくどりイクトスマイム(特非) 楽歩 なわて更生園  
 (社) 富山県手をつなぐ育成会 Joint Joy(福) 関谷福祉会 石渡和実 白梅福祉作業所 らいふスペースともある 洛西愛育園  
 (福) 浄泉会やまばと学園 二村典子(特非) アントワープカウンセリングオフィス 障害者支援施設まがたま(特非) ごとべえの会 橋本佳美  
 塩永淳子 竹下洋久(株) ベストサポート 北海道療育園 のはら 豊四季光風園 相談支援事業所ホープ 東京都石神井学園 西宮敬子 平林道子  
 麻生誠二郎 ひまわり学園(福) 三田谷治療教育院 江東区こども発達センター 内山登紀夫 入道雲 宮崎明 滝口圭子(福) 富士旭出学園  
 竹の塚福祉園(特非) あおい糸(福) 横浜愛育会 尾川一夫(福) 恵友会 内田匡輔(株) ホアラウナ 清水直治(福) 鈴風会すずかぜ  
 発達支援センターひこばえ 児童発達支援施設桐友学園(福) 若葉(福) 墨田さんさん会(福) よるべ会 武藤直子 江東区こども発達扇橋センター  
 山本恵子(株) メガテラフーズ東松山第一事業所 豊島区立駒込生活実習所(福) 緑星の里やまぶき(福) あしたば中野学園  
 (特非) 日本ポーターズ協会 浜田正子 吉川真知子 西永堅 稲城市発達支援センター分室レポートいなぎ大丸 早坂方志  
 (福) すてっぷ Little kid's club(福) いずみ会袖ヶ浦学園 世田谷区立世田谷福祉作業所 美唄学園



## 公益社団法人 日本発達障害連盟

私たちは、世界の知的障害・発達障害のある人々が、障害のない人と共に参加する共生社会の実現を目指しています。

### 【構成団体】

当事者と親・保護者の会

一般社団法人

全国手をつなぐ育成会連合会

【ホームページ】 <http://zen-iku.jp/>

【TEL】 03-5358-9274

福祉施設関係者の団体

公益財団法人

日本知的障害者福祉協会

【ホームページ】 <http://www.aigo.or.jp/>

【TEL】 03-3438-0466

学校教育関係者の団体

全日本特別支援教育研究連盟

【ホームページ】

<http://zentokurenhp.world.coocan.jp>

【TEL】 03-3822-1606

研究者の団体

一般社団法人

日本発達障害学会

【ホームページ】 <http://www.jasdd.org/>

【TEL】 03-5814-8022

一般社団法人

全国手をつなぐ育成会連合会



公益財団法人

日本知的障害者福祉協会

全日本特別支援教育研究連盟

全特連



一般社団法人

日本発達障害学会

Japanese Association for the Study of Developmental Disabilities

編集：公益社団法人 日本発達障害連盟 会長 小澤 温

〒114-0015 東京都北区中里1-9-10 パレドール六義園北402

TEL：03-5814-0391 FAX：03-5814-0393 URL：<http://www.jlidd.jp/>

発行：障害者団体定期刊行物協会(SSKP)

〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷3-1-17 ヴェルドゥーラ祖師谷102

※無断転載・複製を禁じます。 2024年7月19日発行 定価100円